



Subaru

男声合唱団

ニュース№.659

18. 8. 22

嶋本晃先生の声楽特別レッスン開催！

8月17日

合発曲「君死にたまふ」の発声を中心に！

□ 8月17日(金) 18:00～20:30 バリトンの第一線での声楽家(各種オペラ等出演)であり、音楽講師・声楽指導・指揮者でも活躍しておられる嶋本晃先生に来ていただいて、「嶋本晃特別声楽レッスン」を開催しました。佃さんの体操と吉岡さんのリードでの「滑舌の訓練」、千秋さんのヴォイストレーニングのあと、本並先生の指揮での「君死にたまふことなかれ」の合唱を、必要に応じて、直すべき歌詞(ことば)を、声楽の観点から、どう発声するのが好ましいか?時間をとって分かりやすい説明とていねいな発声指導をしていただきました。ピアノ伴奏は森二三さん。参加者は全34名でした。



□ 8月17日(金)に引き続き、8月19日(日) 14:00～17:00 昇定例レッスンが開催されました。佃さんの体操と吉岡さんのリードでの「滑舌の訓練」、伊藤さんのヴォイストレーニングのあと、伊藤副指揮者の指揮で12回コンサート第3部曲「朝露」を、休憩をはさんで、本並先生の指揮で「航路」と「君死にたまふことなかれ」をレッスンしました。「君死にたまふことなかれ」は、前回の嶋本晃先生の声楽指導をふまえて、各パートの音のバランス(聴き合う)と、ことばを音にしていかにしっかりとした声でうたうか?集中して歌うレッスンになりました。ピアノ伴奏は森二三さん。参加者は全34名でした。

□連絡事項

(1) 大阪のうたごえ合唱発表会について

9月9日(日) LIC はびきの(近鉄南大阪線・古市下車、徒歩10分)

昇の集合時間:16:50 リハーサル:16:50～17:10 本番:17:54(第2次案)

赤シャツ・9条バッチ・黒ズボン・黒靴

(2)2018年昇合宿総会について 8月:26日(日)~27日(月)大阪市立青少年センター(新大阪)
8月26日(日) 夕食:18:00頃から 懇親会:準備ができ次第開催します。
8月27日(月) 2018昇総会:9:00~12:00 昼食後、13:00~16:00定例レッスン
(「第18回議案書」配布済み。事前によく読んでいただき当日活発な議論の場となりますように！)
・パートマネージャーは26日当日までに合宿費の集金をお願いします。

(3)「昇第8回団内コンサート」

2018年8月26日(日) 13:00ねむかホール集合 13:30開演 16:00終演予定(終了後、「2018昇総会」会場へ) パートリハーサル T1:13:00~13:10 T2:13:10~13:20 BR・BS:13:20~13:30

(4)「千秋昌弘&男声合唱団昇ジョイントコンサート=SIYAHAMBA(われらは進みゆく)=」

①チラシが刷り上がりました。(1万枚) 友人知人へ、友団の担当者へ、いろんなイベント開催時やコンサート会場へ、近くの公民館等でおいていただけたところへ、お願いしてください。

②「チケット」を団員に配布しました。(座席指定:A席2,500円 B席2,000円) 売り切ってください!(どうしても売れない場合は、12月中にチケット担当者へ戻してください。)全員完売を目指して努力しましょう!足りない方は早めに申し出てください。

(5)「昇新入団員」及び「昇第12回コンサート期間団員」を募集します!

昇は「男声合唱団昇に入るとともに楽しい合唱人生を!」と新入団員の募集をしています。同時に今回は「第12回コンサートの①「第1部4曲「春を待つ」「浜辺の歌」「ねがい」「夕焼け」を歌いましょう」

②「第3部4曲「橋を作ったのはこの俺だ」「航路」「朝露」「SIYAHAMBA」をうたいましょう!」

③「第1部と第3部の8曲を歌いましょう!」

と昇の男声合唱の醍醐味をともに味わっていただくために、3つの形の「昇第12回コンサート期間団員」を募集します!お問い合わせはチラシ裏面の代表者の携帯までお願いします。

嶋本晃先生レッスン一口メモ

(8月17日「嶋本晃声楽特別レッスン」での聞き覚えです。間違っていて書いているところ等訂正箇所があるかと思しますので、連絡ください。)

- ① 「君死にたまふ」のこの曲前半良く聴こえる!後半、低声部がイニシアチブをとるところで「ことば」が聴きとりにくいところがある。課題!
- ② 「Uh---」と延ばしてうたうパートは「Uh---」に方向性を持たせること。わからないようにクレッシェンド・デクレッシェンドをつける。固定した「Uh---」で出していくと音の音色が弱くなるので。
- ③ 声を出すときは身体(筋肉)をしっかりと使うこと。高い声を出すときは人間は身体を使うが、低い音を出すときは体の筋肉を使わないで出そうとする。普通Cで「ドレミファソラシド」「ドシ

ラソファミレド」と、上がり下がりした時の最初の低い「ド」と最後の下りた「ド」は音質どうか？最後の「ド」の方がよい音質になっている。しっかりと筋肉を使って出しているから。

(結論) 低い音(音程の低いところ)を出すときは身体をしっかりと使って、力を抜かずに、声帯をしっかりと張って出すイメージで、(声を張り上げろという意味でない)。特に音の上がり下がりのあるところは注意して！

④ ①BS54小節～BR56小節～「ああ おとうとよ たたかいに きみしにたまふことなかれ・・・」

一連のことばの意味を伝えてうたう。「ああ」の詞：声を開けてしっかりと準備して出す。上向形と下向形のことばがあるとき（「ああ おとうとよ たたかいに」）「きみしにたまふことなかれ」：プツプツ切った感じにするな！4連節づつ音を続けて。「きみ」、「死に」、「ことなかれ」：プツプツ切らずに、なめらかに言葉をつづけながら「き」「死」「ことなかれ」を強調して歌う、しかし引っ込んだ声の強弱は駄目！ことばの強さが無くならないように！ BR：「きみしにたまふことなかれ」(主旋律)しっかりとプツプツ切らずに、ことばしっかりと！

⑤ T2：42小節～「すめらみことはたたかいに・・・」

- ・まず「すめらみこと」の発声は、イタリアの「ベルカント唱法」でなく、自然体の声で。
- ・最初の「す」の声ひっこめないで出す！ことばの最初の音の息のスピードはトップスピードでしっかりと息を出して、音にする。
- ・「たたかいに」の言葉尻の「い」「に」の母音注意！強弱の弱の音。
- ・日本語の歌詞は、まず巻末の「縦書き歌詞」を朗読すること。歌う「歌詞」を日本語として、ことばの、音の強弱を出して、まず語ること。

⑥ 「Uh---」「Ah---」と延ばしてうたうパート：その時は「王子様の衣装」になることである。口がどう？息がどう？と考えながら、音(メロディー)から入るのではなく、詞から入る。作詞者がおり、その詞に感じた作曲者がいる。日本語の運びを会得して、まず詩を読むことも大事な作業。

⑦ F(フォルテ)とP(ピアノ)の感じ方について。

F:は“大きな綿飴”。一部分をつかんだふわふわの“ワタあめ”ではない。

P:全体を”ギュー”と詰めた感じ。単に音量が小さくなるのではない。ボリュームを絞っても内容は弱まらない。

T2:45小節「いでまさね」:音の高いことばボリューム大きくして、低くなったから小さくしてでは、ことばが伝わらない。高いところコントロールして、音量出す。「い」:最初の「い」をしっかり出そうとすると、前の「Uh---」の最後を省いて、「い」を出す中、時間を作る必要がある。「で」:高くなったからと言って大きすぎないよう。生理的に音程高いと大きく、低いと小さい(出ない)では駄目！高いところコントロールして、低いところもしっかり出す。

⑧ 最後に、「123 123」「タータ タータ タータ タータ」にのみこまれませんように！